

口は健康のもと Vol.143

摂食嚥下(せっしょくえんげ)障害をご存じですか？

摂食とは食べ物を認識し、口に運んで飲み込める状態につぶして塊にしていくこと、嚥下とは水や食べ物を飲み込むことを指します。この一連の過程のどこかに問題があることを摂食嚥下障害といいます。

食べ物の取り込みの問題としては、認知症で何でも口に運んでしまう、脳梗塞の後遺症によって食べ物を口まで運ぶのが難しくなるといったことが挙げられます。

摂食の問題としては、筋肉や神経の障害により、食べ物や唾が口のわきからこぼれてしまう、顎や舌を上手に動かせないで食べ物を細かくできない、塊にできない、あるいは喉に送り込むことができないといったことが挙げられます。また、歯が無くて上手く噛めないことも挙げられます。

嚥下の問題としては、食事中や夜間にむせてしまう、水が気管のほうに入り込んでしまい、うがいをしているような声になってしまう、飲み込むときに鼻の方に逆流してしまうといったことが挙げられます。

次回は摂食嚥下障害への対応について説明します。



奥羽大学歯学部附属病院

歯科麻酔科 講師 鈴木 史彦